今回はそこを面的に調査し、回廊と東殿の細部構造を明確にすることが目的です。12月現在、南区についての調査が進行中です。

まず南区の東端では、1999年度の調査で確認した東西棟大型礎石建物の西妻を検出しました。これによって、桁行9間、梁行4間の規模をもつことが確定し、藤原宮では大極殿に次ぐ大規模な建物であることがわかりました。

また、大極殿を取り囲む回廊は、幅6ｍの複廊であることを確認しました。2カ所に礎石が残りますが、他の礎石は後世に抜き取られています。この周辺には、大量の瓦が堆積していました。

なお、11月初旬には、カンボディアからの研修生

回廊周辺瓦堆積の調査風景

3名を迎え、国際色豊かな現場となりました。調査は3月までの予定で、これから北区（東殿）の本格的な調査に入ります。

藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第117次）

秋の現場班は、10月から大極殿院東回廊部分の調査を開始しました。大極殿東方に建つ東殿を対象とした北区（約1200㎡）と、回廊およびその東側に建つ大型建物西端の確認を目的とした南区（約500㎡）に分けて調査しています。

この一帯は、約60年前に日本古文化研究所が壺掘り調査をおこない、遺構の概略が判明しています。